



『一步一步進もう』

~Let's Move Forward Step by Step~  
東京六本木ロータリークラブ会長

# TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

## WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

~Rotary Shares~  
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年3月3日

No. 26



平成20年2月18日  
卓話 『加賀藩の参勤交代』  
社団法人 霞会館 理事  
前田 利祐 様



加賀藩の参勤交代のお話をいたします。参勤交代の始まりですが、まず秀吉が1598年に死にます。私どもの前田利家が1599年に死にます。その後家康が軍を出して豊臣方との戦争になるもんですから前田家二代目の利長はしうがなく徳川方につきます。言ってみれば豊臣家に對して謀反を起こしたわけです。このとき芳春院という利家の奥さんが人質になって江戸に入っちゃうわけですね。同じように今度逆に徳川家二代目の秀忠が娘の珠姫を前田家三代目の利常の正妻に入れて釣合いを取ったわけです。結局、家康がどうしても天下を取りたいもんだから、そういうことになります。するとそのあとに松平忠政とか毛利輝元とかがこれはやばいといふんで人質を出すことになるわけです。そんなことでいわゆる参勤交代が始まるわけでございます。

参勤交代はまだそのころはちゃんとできてないわけですけれど、どうしても徳川家の方が既成事実をどんどん入れてくるわけですね。1603年に家康が征夷大将軍になって1634年ぐらいに武家諸法度ができる、幕府がどんどん強くなっちゃう。正妻は完全に江戸に入っちゃって、国許には他の奥さんがいるということになるわけです。参勤交代は幕府が弱くなったり黒船が来て国防があったりして1862年になくなるまで220年ぐらい続きました。

加賀藩の参勤交代の回数は1635年から1862年の227年間で参勤が92回、交代が97回ございます。参勤というのは江戸に来たやつで交代は加賀に帰るやつです。もう謀反の気配とかありませんから割と平和なんんですけど、それを続けたというのが一番大変なところですね。行列の人数は大体2,000人ぐらい。5代の綱紀のときなんか4,000人ぐらいいましたが1827年ぐらいになると

大分少なくなってきました。馬も替え馬もありますし人も駕籠かきがあつたり馬の口取りがあつたりします。祐筆もいれば医者も針灸も馬の医者もおりますし、指物師云々といっぱいあります。携帯品は日用品、食料品、いろいろありますけれども、重石を乗せたままの漬物とか殿様の風呂桶、茶道具とかも入るわけです。それから道は金沢を出て信越線と同じ経路を通ります。一番短くてお金のかからないところを選って使うことになります。大体1回、片道のお金は4億近くになります。かなりお金がかかるということですね。

参勤交代の影響をちょっと考えてみます。参勤交代をやりますと、インフラといいますか、道ができますし宿屋ができます。あと文化の関係では度量衡とか貨幣の価値とか言葉、例えば島津さんと秋田の佐竹さんがしゃべりますと、絶対分からないわけですね。じゃあどうするかというと、結局武士の教養といいますか、お能とか、そういうもので話をする。それが唯一武士の言葉ということになるわけです。

もう一つ鎖国というのが非常に大きなものでした。島原の乱とか銀の流出とかいろんな理由があったわけですけど、鎖国によって日本独自の文化ができるわけですね。利休なんかのゆがんだ茶碗なんかもよろしいということになって、いってみればジャポニズムです。明治の前なんかでもジャポニズムがパリの万国博で人気を得たように割とレベルの高いところにあったと思います。参勤交代と鎖国は日本の文化を盛んにしたという意味でよかったです。

